



令和3年度 市民と市長の意見交換会 ふれあいトーク・レポート

久峰中学校区 令和3年11月9日(火)開催

ふれあいトークは、市長が市民の皆さまと地域の課題や市政について直接意見を交わし、課題解決に向けての方向性や具体的な方策を確認することで、地域と行政の相互理解を深めるとともに、市民目線での市政運営を進めることを目的に開催しています。

◆令和3年度のトークテーマ

トークテーマ ～子どもたちの未来のためにできること～

トークの柱 『より良い久峰地区と学校を築くために』

12年目を迎えた市長と市民の意見交換会「ふれあいトーク」。平成30年度からはトークテーマを「子どもたちの未来のためにできること」とし、子どもたちの「教育」について各中学校区単位で意見交換を実施しています。

◆市長から情報提供 とことん住みやすく、力強く発展するまちづくり

●地域の現状等を共有

①宮崎市でも人口減少が進んでおり、今後さらに人口減少が加速する見込みです。

- ・宮崎市全体の人口推移 平成27年 403,895人 ⇒ 令和47年 301,809人 (25.3%減)
- ・佐土原地域自治区の人口推移 平成27年 34,386人 ⇒ 令和47年 24,499人 (28.8%減)

②若い世代の転出超過が大きくなっています。そのため魅力的な雇用創出と地元で活躍できる人材育成に取り組んでいます。

- ・宮崎市の年齢別の転入転出数をみると、15～19歳、20～24歳で大幅な転出超過となっています。
- ・市ではそのような現状に歯止めをかけるべく、企業誘致による新たな雇用の創出や、中学生を対象として県内企業を紹介する体験型進学・就職イベントなどを実施しています。

③人口減少が進むことで、地域の課題がより複雑化、多様化しています。

- ・人口減少のスピードや高齢化率、歴史・文化は地域によって異なるため、それぞれの地域の特性に合ったまちづくりが求められています。

④地域には様々な組織や団体、行政機能があります。それぞれ連携し、特性を生かしたまちづくりを行いましょう。

⑤地域活動への参加で、元気な地域コミュニティを次の世代につなげましょう。

- ・佐土原地域自治区での活動事例・・・ひろきた元気フェスタ、ウォーキングフェスタ、新春風揚げ 等



▲久峰中学校区の現状や課題、市が現在取り組んでいる施策などについて、市長が説明

◆ フリートーク

● トーク参加者からの意見

- ・久峰地域の魅力として、地域がつくってきたあいさつの文化、人とのつながりが継承されている。
- ・久峰地域の魅力として、子育てに最適な環境が整っている。
- ・久峰地域の課題として、他地区との交流の機会がなく、人の移動も少ないことである。
- ・今後は、行事を形式化させるのではなく、久峰地区の良さを共有し、楽しめるような企画を考えていきたい。
- ・一人の親として、どんな小さなことでもいいので地域との繋がりを大切に、子どもたちに繋いでいきたい。

● 中学生からの意見

- ・久峰地域の魅力として、自然が多いこと、地域の方があいさつをしてくれること、住民同士の仲がよく交流の機会が多いことである。
- ・久峰地域の課題として、公共施設の整備、石崎浜のごみが多いことが挙げられる。
- ・学校の魅力として、学びの環境が整っていること、部活動が盛んなこと、行事への取組、生徒全員の仲がいい点が挙げられる。
- ・佐土原駅のタクシーなどが停まっている場所付近が、少し危ないので、ロータリーなどを整備すると安全になるのではないか。バスや車などが交差しており危険。
- ・佐土原駅の自転車小屋の自転車がぐちゃぐちゃに並べられている。しっかり停めるように白線を書き、皆が白線内に停めるようにすれば、今外に停めている人も、中の方に停めることができるようになると思う。
- ・より良い久峰地区と学校を築くために、継承してきた文化を後輩に引き継ぎ、より良い取組になるよう改善を続けていきたい。

● 傍聴者からの意見（アンケートより）

- ・問題意識を持って生活している中学生を頼もしく思いました。夢は、もっと大きくあって欲しい。実現不可能とあきらめない。親の姿を見せる事、大切です。
- ・ゴミ拾いのイベントは実施出来たらいいと思います。
- ・改善意欲を強く持つ事は大事だと思っているので、あきらめず、前向きに考え、取り組んでもらいたいと思います。

● 市長からの回答、感想

- ・PTAと学校が熱量をもって教育活動に取り組むことで、子どもにより良い伝承ができると思う。
- ・子どもがまとまると、学校がまとまり、地域がまとまる。世代を超えた交流をこれからも続けてほしい。

